

トピックスというほど新しいことはありませんが緩和ケア研修会のご紹介をいたします。

緩和ケア研修会（以下、研修会）は正確にはタイトルのような長い名称です。「がん対策基本法」および「がん対策推進基本計画」では、すべてのがんに関与する医師が緩和ケアの基本的な知識・技術・態度を習得することをがん医療の重要な課題としています。厚生労働省より日本緩和医療学会が委託を受け緩和ケアの基本教育の普及を目的にPEACEプロジェクトを組み、事実上のカリキュラムを公表しています。都道府県がん診療連携拠点病院および地域がん診療連携拠点病院がそのカリキュラムに従い研修会を行っています。

研修会の内容は、緩和ケア概論（レクチャー）、がん疼痛の評価と治療（レクチャー）、がん疼痛事例検討（グループワーク、ディスカッション）、オピオイドを開始するとき（ロールプレイ、寸劇）、呼吸困難（レクチャー）、消化器症状（レクチャー）、気持ちのつらさ（レクチャー）、せん妄（レクチャー）、コミュニケーション（ロールプレイ）、地域連携と治療・療養の場の選択（レクチャー・グループワーク）から成っています。これらの内容を12時間以上かけて受けて頂きます。実際ハードな研修会です。福岡県では研修会を2日間にわたって行うこととなっています。

内容は緩和ケアの基本的なことから既に緩和ケアを行っておられる方には物足りないかもしれません。しかしながら緩和ケアに用いる薬物はオキシコドンの注射薬やフェンタニル貼付剤の1日用などが発売され、せん妄などに使う薬剤も非特異性抗精神薬を用いるなど変化もあり、それに応じて内容も更新されています。この研修会は上記のようにコミュニケーションの技術に関するユニットもあり、がん診療に限らず他の診療に有用と思います。もっとレベルの高い講習をご希望される方が多ければ福岡県全体で「フォローアップ研修会」を行う用意もあります。

この基本的な研修会を受けると修了証が厚生労働省より発行され地方厚生局に届けると、オピオイドを処方したときに「がん性疼痛緩和指導管理料」などを請求することができます。

土曜・日曜とお休みの日に長時間の研修会は確かに大変と思いますが、是非多くの方にご参加頂き、緩和ケアが広く行われるようになることを願ってやみません。

麻酔科部長(ペインクリニック担当)：神代 正臣



《グループワーク》



《ロールプレイ》